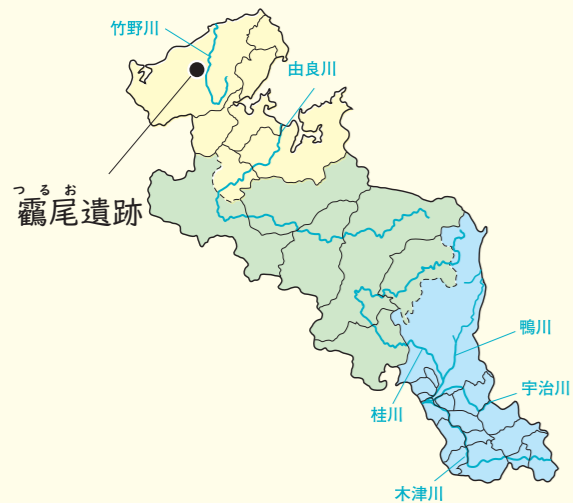


つるお  
霧尾遺跡（京丹後市）

713(和銅6)年、丹波国は、丹波国と丹後国に分国されました。もとの丹波の国の中心は、現在の京丹後市峰山町丹波にあり、現在もその地名が字名として残されています。

京丹後市峰山町丹波に所在する霧尾遺跡の発掘調査では、奈良時代の溝や土坑などから3点の木簡と6点の墨書土器が出土しました。多数の文字資料が出土したことから、調査地の近くに、文字を扱う役人が勤務する地方官衙（役所）があったことが推定されます。木簡の一つは九の段から五の段までの九九が書かれた「九九木簡」です。地方官衙に勤務する役人は、徴税管理

などを行う上で、文字を書き、計算する必要がありました。この九九木簡は、役人が計算のために利用する一覧表（早見表）だったとも推測できます。奈良時代の地方官衙で働く役人の勤務風景が思い起こされる貴重な資料です。



九九木簡赤外線写真と釈文

(赤外線写真は奈良文化財研究所撮影)



裏面 表面

遺物が語る京都の歴史

墨書土器が語る（木津川市馬場南遺跡・神雄寺跡）



木津川市馬場南遺跡の調査では、歴史に登場していなかった寺院跡（史跡神雄寺跡）が見つかりました。その存在の根拠となったのが神雄寺という寺名やお経の一部と思われる文字が墨書された土師器や須恵器が出土したことです。また、万葉歌木簡とともに「黄葉」と記された土器からは、境内で歌会が行われていたこともわかりました。これらの出土品は、令和4年11月に国の重要文化財に指定するよう答申されました。

発掘調査

よもやまばなし

メモを取る

発掘期間中、調査担当者は、いつでもどこでもメモが取れるよう、常に野帳を持ち歩いています。急な降雨による水濡れで中のメモがボロボロにならないように、硬い表紙で保護された野帳は、発掘調査の必需品です。



【発行日】 令和4年12月

【編集・発行】

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター  
〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40番地の3  
<http://www.kyotofu-maibun.or.jp>



もっと知りたい

京都の遺跡 第11号



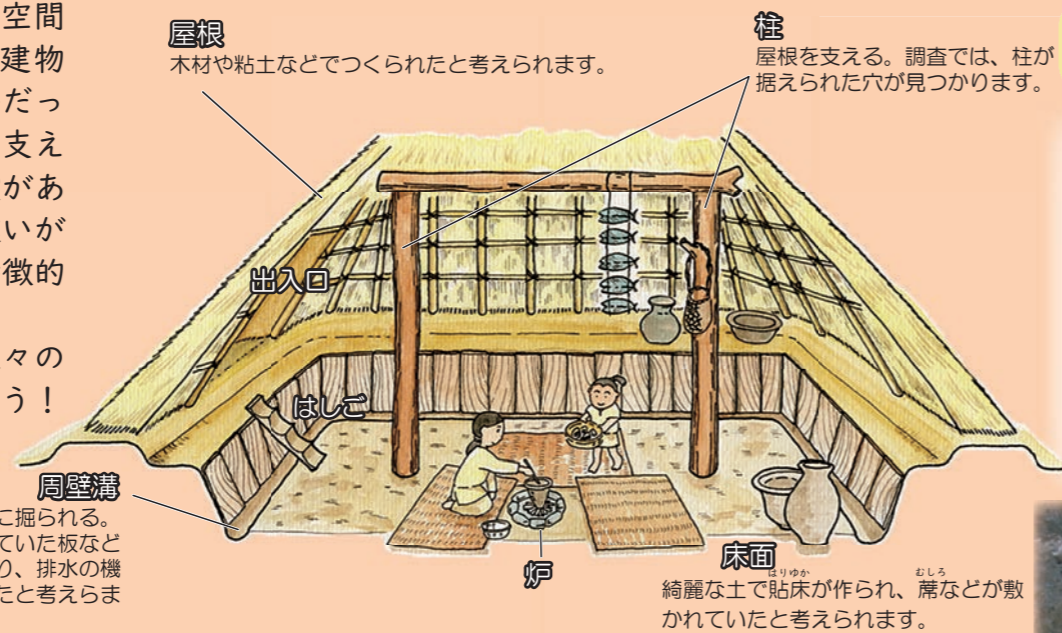
たてあはたてもの  
壑穴建物

たてあなたても  
**竪穴建物**は、地面を掘って空間を作り、上部を屋根で覆った建物で、住まい（竪穴住居）や工房だったものです。内部には、屋根を支える柱や、火を使う炉などの施設があり、時代・地域ごとに構造に違いがあります。ここでは、府内の特徴的な建物を紹介します。

施設の痕跡を見て、当時の人々の生活の様子を想像してみましょう！

※中学・高校の教科書では、一括して竪穴（式）住居（跡）と記されていますが、ここでは竪穴建物と表現します。

周壁溝  
 床の隅に溝状に掘られる。壁に設置されていた板などを立てかけたり、排水の機能を持っていたと考えられます。



い が じ いしがこいる  
**1. 伊賀寺遺跡（長岡京市）【石囲炉】**  
 縄文時代中期

一辺5m程のややいびつな隅丸方形の竪穴建物の床面から、石で囲われた炉（石囲炉）が見つかりました。石囲炉は平面方形で、一辺約1mを測る大きなものです。石材は砂岩とチャートで、石の内面が焼けて赤くなっており、底には焼けた土が厚く堆積していました。煮炊きを行ったり、暖をとったりしていたのでしょうか。



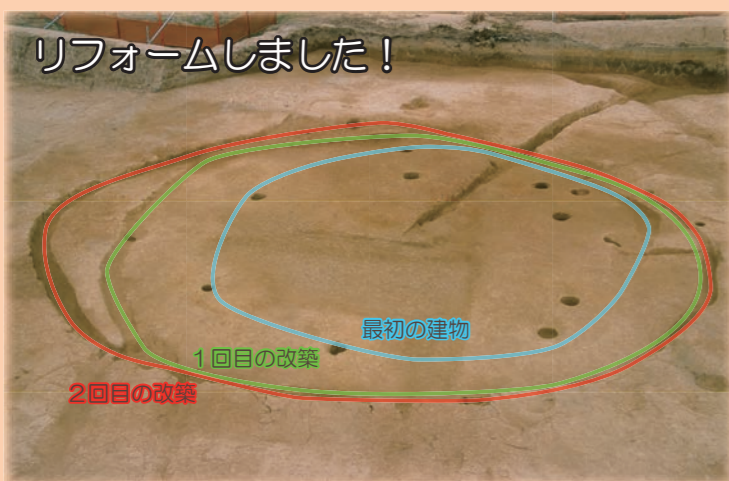
みのやま  
**3. 美濃山遺跡（八幡市）【改築】**  
 弥生時代後期

長く住まいすると、愛着のある住居も柱の根本が腐ってきたり、住人が増えたりして、建て替える必要が生じることもあったようです。美濃山遺跡で確認された円形の竪穴建物では、周壁溝が3本見つかっており、2回の改築が行われたと考えられます。最初の建物の面積は約40㎡で、2回目の建替えて約70㎡まで広がっています。



ま っ だ  
**2. 松田遺跡（大山崎町）【ベッド状遺構】**  
 弥生時代後期

平面八角形で、最大長8.5m・床面積54㎡を測る大型の建物です。壁際に沿って、床より10cm程高くなっている部分が4か所ありました。現代のベッドのように使われていたのでしょうか。また、北側の突出部は出入口と思われ、扉等を支えたと思われる柱の穴が2か所見つかっています。



のじょう  
**4. 野条遺跡（南丹市）【焼失住居】**  
 弥生時代後期

竪穴建物の中から焼けた柱材や屋根材の痕跡がみつかることがあります。火事で焼け落ちた場合と、建物の放棄にあたり燃やしたことがあるようです。野条遺跡の竪穴建物は、炭化した柱材・屋根材などが床面に落ちた状態で見つかりました。床の隅に残されたたくさんの土器から、火事にあい持ち出す間もなく屋根が崩落したことが推測されます。このような被災資料は、私たちにより具体的に、当時の建物内の様子を伝えてくれています。



もろはた  
**5. 諸畑遺跡（南丹市）【カマド】**  
 古墳時代中期

古墳時代中期（5世紀）になると、朝鮮半島から伝わったカマドが普及し始めます。カマドは壁際に造りつけられた調理施設です。この時期、底に穴の開いた甕と呼ぶ土器も普及し、米を炊くことから蒸すことに調理方法が変化したようです。諸畑遺跡で見つかったカマドは、南丹波最古のもので、板石と粘土で造られており、カマド内部には、甕を支える支柱に転用された高杯が出土しています。



たかやま  
**6. 高山古墳群・高山遺跡（京丹後市）【?】**  
 古墳時代後期

高山古墳群は横穴式石室をもつ13基の古墳からなり、最大の12号墳からは金銅装双龍環頭大刀が出土しています。古墳群の山側、5号墳と約100mの距離から1棟の竪穴建物がみつかりました。建物の大きさは一辺約5m程で、壁際にカマドが造られているものの、頻繁に使用された痕跡が認められません。古墳造営や葬送儀礼、その後の管理に伴うものと考えられますがどのような用途で用いられたかわかっていません。



はまづめ  
**7. 浜詰遺跡（京丹後市）【復元竪穴建物】**

浜詰遺跡では、縄文時代後期の竪穴建物が1棟復元されています。内部にも入ることができ、石囲炉などが復元されています。

表紙写真（8）

京丹後市立丹後古代の里資料館には、周辺の大山遺跡（弥生時代後期）と竹野遺跡（古墳時代後期）の調査例を参考とした3棟の竪穴建物が復元されています。



竪穴建物に入ってみよう！

近代	江戸時代	6・8
近世	安土桃山時代	5
	戦国時代	
中世	室町時代	古墳時代
	南北朝時代	
	鎌倉時代	
古代	平安時代	弥生時代
	奈良時代	
	飛鳥時代	
古墳時代	後期	縄文時代
	中期	
	前期	
弥生時代	後期	旧石器時代
	中期	
	前期	
縄文時代	後期	縄文時代
	中期	
	前期	
縄文時代	早期	縄文時代
	草創期	
	旧石器時代	